

高校期からの長期ステロイド使用後の顔面・頸部症状を経て化粧と外出が可能になった成人アトピーの経過 (32 歳 成人)

症例 ID：001-30-TKy | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

高校 1 年時に肘内側の湿疹でアトピーと診断されました。短大の就職活動期に顔面症状が出て、抗ヒスタミン薬とステロイド外用薬を使用しました。

就職後 4 年間は花粉症に対して耳鼻科の内服薬を使用し、顔にはステロイド外用薬を化粧下地のように毎日使用していました。結婚 4 か月後に顔面症状が悪化し、外用薬が効かなくなりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	高校期から顔面・肘の症状にステロイド外用薬を使用し、就職後は顔へほぼ毎日使用しました。花粉症に対する内服薬にもステロイドが含まれていました。
製品名	製品名不明です。
強度	強い内服ステロイドを含んでいたと記録されています。外用薬の強度は不明です。
使用期間	高校期から受診前まで長期間使用し、就職後 4 年間は顔面へ日常的に使用しました。
中止時期	1996 年 1 月 10 日の松本医院受診時に中止しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
高校 1 年	発症	肘内側の湿疹でアトピーと診断され、外用治療を開始しました。
短大 2 年	顔面症状	就職活動期に顔面症状が出ました。
就職後 4 年間	長期使用	花粉症の内服薬と顔面へのステロイド外用を継続しました。
結婚 4 か月後	急性悪化	顔面症状が悪化し、外用薬が効かなくなりました。
1996 年 1 月 10 日	治療開始	松本医院を受診し、ステロイドを中止しました。
治療 1～3 か月	ピーク期	顔面の発赤、浸出液、熱感、強いかゆみが続き、首・肩にも症状が広がりました。
治療 4 か月	改善期	皮膚の落屑が増え、徐々に変化がみられました。
治療 5 か月	生活変化	1 週間の旅行ができるようになりました。
治療 6～7 か月	経過後	症状がほぼみられなくなり、化粧をして街を歩ける生活へ戻りました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始後 1～3 か月に顔面全体が赤くなり、浸出液、熱感、強いかゆみが続き、首から肩へ症状が広がった時期です。

5. 困りごと

- 顔面症状により就職活動や新婚生活への不安がありました。
- 浸出液と強いかゆみにより日常生活が大きく制限されました。
- 長期の外用と内服により、治療開始後の強い症状が続きました。

6. 経過のまとめ

長期のステロイド使用后、顔面・頸部の強い発赤、浸出液、かゆみを経験しましたが、治療5か月後には旅行ができ、6～7か月後には症状がほぼみられなくなって、化粧と外出を含む通常の生活へ戻りました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。